

一般演題6 O6-3

がんに起因した急性脊髄麻痺に対して早期放射線治療とHBO併用が有効と考えられた2例

後藤陽次朗<sup>1)</sup> 甲斐雄多郎<sup>2)</sup> 灘吉進也<sup>2)</sup>

- 1) 社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院 臨床工学科
- 2) 社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 臨床工学科

【目的】

転移性骨腫瘍に起因する脊髄麻痺はがん患者の5～10%で生じる最もQOLを低下させる合併症の一つである。放射線緊急照射は進行性の運動麻痺を呈している場合に適応となり、麻痺回復のゴールデンタイムは24～48時間とされている。当院において高気圧酸素治療（以下HBO）は集学的治療の一端として放射線治療直前に実施しているが、脊髄麻痺に対する放射線治療とHBO併用に関する報告はない。今回、当院においてHBO併用症例に対し有効と考えられた2例を報告する。

【症例1】

26才男性、神経芽細胞腫にて2011年8月より放射線化学療法開始。2014年12月1日より歩行障害を認め、翌日当院緊急入院。MRI上でTh9に髄膜外腫瘍による脊髄圧迫を認めた。HBO連日7回を放射線治療（30Gy）直前に施行。治療導入時のADL評価であるBIは85点、治療開始後より下肢麻痺は改善し、翌日より歩行可能となった（HBO完遂後BIは100点）。

【症例2】

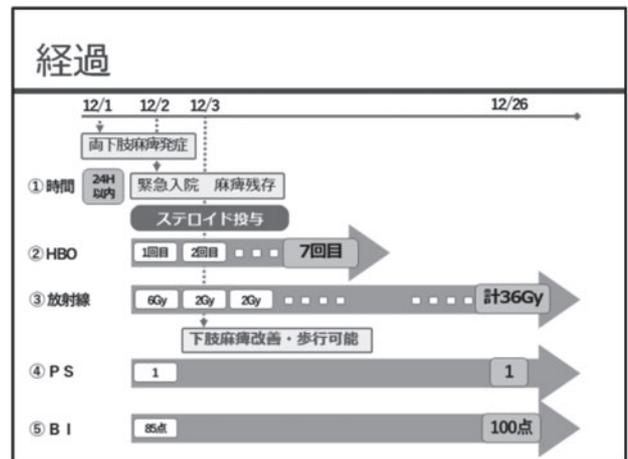
81才男性、前立腺癌にて2012年7月よりホルモン内分療法開始。2018年8月1日朝より下肢脱力認め、翌日当院紹介入院。Th8病変の脊柱管内進展による脊髄圧迫を認めた。HBO連日15回を放射線治療（38Gy）直前に施行。治療導入時BIは60点、下肢麻痺は開始2日後より改善、歩行可能となり紹介元帰院となった（HBO完遂後BIは90点）。

【考察】

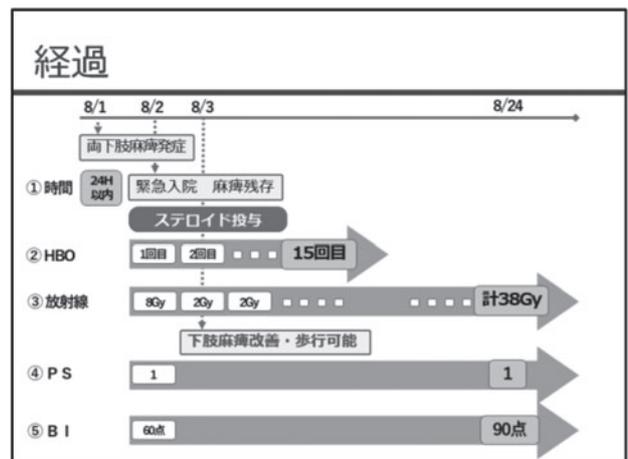
転移性脊髄腫瘍による脊髄圧迫は、急速に不可逆的な両下肢完全麻痺に至るが、初期症状での早期治療（緊急放射線治療、ステロイド投与）など、速やかな対応が重要であると考えられた。先行研究より、放射線治療単体での麻痺改善には通常1週間程度とされているが、本症例における早期改善はHBOが関与した結果と考えられた。放射線治療の効果は腫瘍縮小に伴う圧迫解除にあるが、HBO併用は脊髄神経の虚血改善が図れるとともに、放射線が効果を発揮する期間迄の架け橋となる可能性がある。

【結語】

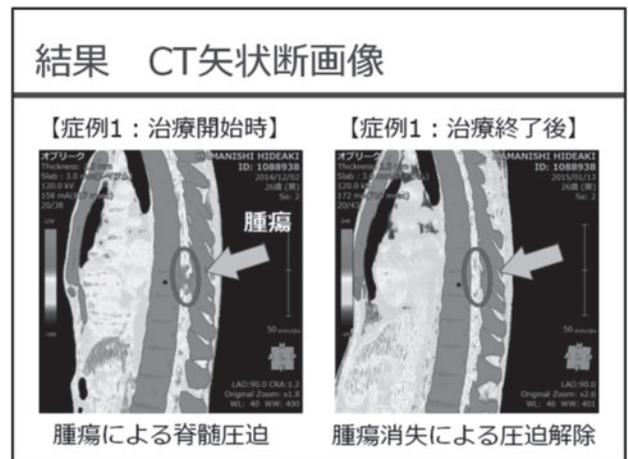
今回、当院においてHBO併用症例に対し有効と考えられた2例を報告した。転移性骨腫瘍に起因する脊髄麻痺において、放射線緊急照射は進行性の麻痺に対する治療として確立されているが、今後HBOの早期併用は更なる有用性が期待できる。



【症例1経過】



【症例2経過】



【結果：CT矢状断画像】